

米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

米国：2018年10月11日公表ほか USDA Crop Production

8月の農業気象概況（2018年9月12日公表）

8月は米国各地で気温が平年並みを下回った。特に大平原地域では、8月の平均気温が平年並みを1.1℃以上下回った。ロッキー山地北部及び米国南東部でも、ほぼ8月中を通して平均気温が平年並みを下回った。しかし、南東部及びニューイングランドのいくつかの地域では、8月の平均気温が平年並みを2.2℃以上上回った。米国の東側の半分の地域では、降雨が多く、降水量が101.6mm以上となった地域があった。これと対照的に、太平洋沿岸地域及び南西部では、中程度から極度の乾燥が続き、降水量は50.8mm未満であった。

9月の農業気象概況（2018年10月11日公表）

9月の平均気温は米国東部では全般的に平年並みを上回り、南東部の地域では9月の平均気温が平年並みを2.2℃上回った。ロッキー山地北部、太平洋沿岸北西部、カリフォルニア州北部、また、テキサス州及びネバダ州の一部では、9月中を通して気温が平年並みを下回った。降水量は米国全

体では平年並みであったが、コーンベルト地域、メキシコ湾沿岸地域及び大西洋沿岸地域では、ハリケーン・フローレンスにより大量の降雨と強風がもたらされた。9月中旬に、ノースカロライナ州及びサウスカロライナ州の一部でハリケーン・フローレンスの影響で大量の降雨がもたらされ、9月の降水量が254mmから762mmに達した地域があった。

乾燥インゲンマメ

2018年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量は、前年度から6%増加して171万4,608tとなる見込みである。見込みどおりの生産量が実現すれば、過去最高記録の生産量となる。作付面積は、2017年度に比べて1%減少して84万1,776haとなる見込みである。収穫面積は、2017年度に比べて1%未満の減少で81万3,447haとなる見込みである。米国全体の平均単収（単位面積当たり収穫量）は、2,110kg/haの見込みであり、2017年度に比べて115kg/haの増加となっている。見込みどおりの単収が実現すれば、ミシガン州、ミネソタ州及びネブラスカ州では過去最高記録の単収となる。

ノースダコタ州では、収穫は9月30日の時点で91%が終了しており、最近5年間の平均の66%を大きく上回っている。6月1日から8月31日までの期間の平均気温はほぼ平年並みを上回り、降水量は平年並みから平年並みを上回る水準となっているが、ノースダコタ州北東部だけは例外的に平年並みを下回っている。9月30日の時点で、モンタナ州での収穫は89%が終了しているが、早魘の影響で、2017年には9月16日

に収穫がほぼ完了していたのに比べて遅くなっている。ミシガン州では、9月30日の時点で乾燥インゲンマメの収穫の半分近くが終了しており、これは予定どおりである。作柄は大部分が優から良である。ミネソタ州の乾燥インゲンマメの作柄は、9月半ばの時点で大部分が優から良である。9月30日の時点で、94%の収穫が終了しており、最近5年間の平均に比べて2週間早まっている。

表1 米国の乾燥インゲンマメ等の生産見通し（2017年及び2018年10月1日）

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2017	2018	2017	2018	2017	2018	2017	2018
オーストリアン ウィンターピー	10,720	6,680	3,800	4,820	1.49	1.38	5,670	6,620
乾燥インゲンマメ	846,610	840,950	814,520	813,020	2	2.11	1,625,900	1,716,760
ヒヨコマメ (全品種) 2/	250,420	331,720	242,530	263,570	1.29		313,210	
大粒	177,780	246,250	171,790	181,790	1.31		224,300	
小粒	72,640	85,470	70,740	81,790	1.26		88,900	
乾燥エンドウ	456,490	350,060	425,130	333,670	1.51	1.89	643,060	629,310
レンズマメ	446,780	317,680	413,590	306,760	0.82	1.3	339,380	398,570
リンクルドシードピー	(未詳)		(未詳)		(未詳)		16,190	

(未詳) データが入手できていない。

1/作付面積はすべての用途のものを含む。

2/四捨五入により、合計の数値に誤差が生ずる可能性がある。

生産量: 米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局 (NASS) から、2018年10月11日付で公表。

メートル法の単位による米国の2017作物年度及び2018作物年度の作付面積、収穫面積、単収及び生産量。

データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。現行年度の推定は、2018作物年度全期間のものである。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。

表2 米国の乾燥インゲンマメ収穫面積、単収及び生産量 (2017年及び2018年10月1日現在推定)

州名	収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2017	2018	2017	2018	2017	2018
カリフォルニア	20,113	18,211	2.4	2.6	47,401	46,947
コロラド	22,055	14,568	2.2	2.4	49,533	35,108
アイダホ	72,033	76,079	1.8	1.8	130,318	136,442
ミシガン	88,422	76,079	2.3	2.7	199,311	204,663
ミネソタ	65,963	67,581	2.5	2.8	161,798	189,377
モンタナ	105,216	154,992	1.1	1.7	117,663	260,591
ネブラスカ	62,725	51,799	2.8	2.8	176,948	147,464
ノースダコタ	277,204	248,877	2	2.0	562,097	502,132
テキサス	8,094	7,284	1.2	1.2	9,979	8,981
ワシントン	76,889	86,196	1.7	1.8	128,549	154,586
ワイオミング	15,782	11,331	2.7	2.7	42,321	30,482
米国全体	814,496	812,998	2	2.1	1,625,919	1,716,774

1/夾雑物を除去した値。

生産量: 米国農務省(USDA)、農業統計委員会、農業統計局(NASS)から、2018年10月11日付で公表。

各州及び米国全体の乾燥インゲンマメ収穫面積、単収及び生産量: 2017年及び2018年10月1日現在推定。

表3 米国の乾燥インゲンマメ等の州別及び銘柄別作付面積の推移(2017及び2018年8月1日現在の推定値)

銘柄名及び州名	2017 (ha)	2018 (ha)	銘柄名及び州名	2017 (ha)	2018 (ha)	銘柄名及び州名	2017 (ha)	2018 (ha)
ラージライマ			ダークレッドキドニー			小粒ヒヨコマメ 2/		
カリフォルニア	5,059	4,128	カリフォルニア	(D)	243	アイダホ	18,616	25,495
ベビーライマ			アイダホ	809	1,052	ノースダコタ	5,342	7,244
カリフォルニア	3,480	4,047	ミネソタ	17,887	21,691	ワシントン	21,044	28,328
ネイビー			モンタナ	-	-	その他の州 1/	27,640	24,403
アイダホ	809	486	ノースダコタ	688	607	米国全体	72,641	85,470
ミシガン	29,947	24,281	ワシントン	728	850	大粒ヒヨコマメ 3/		
ミネソタ	16,754	15,378	米国全体	21,408	25,698	カリフォルニア	5,544	6,111
ノースダコタ	33,994	33,689	ピンク			コロラド	(D)	769
ワシントン	445	(D)	アイダホ	3,035	2,995	アイダホ	28,733	29,137
米国全体	83,041	74,300	ノースダコタ	1,093	2,792	ノースダコタ	12,383	40,469
グレートノーザン			ワシントン	445	(D)	ワシントン	46,539	48,562
アイダホ	567	1,255	米国全体	6,030	8,053	ワイオミング	(D)	728
ネブラスカ	22,096	16,916	スモールレッド			その他の州 1/	84,579	120,475
ノースダコタ	1,174	728	アイダホ	2,226	3,076	米国全体	177,778	246,251
ワイオミング	607	324	ミシガン	2,226	5,382	ヒヨコマメ全品種(ガルバンゾ)		
米国全体	25,657	21,125	ノースダコタ	1,781	3,845	カリフォルニア	5,544	6,111
スモールホワイト			ワシントン	809	1,538	コロラド	(D)	769
アイダホ	728	1,052	米国全体	8,417	15,338	アイダホ	47,348	54,633
ワシントン	(D)	486	クランベリー			モンタナ	108,860	140,021
米国全体	3,076	2,388	カリフォルニア	162	243	ネブラスカ	(D)	4,856
ピントー			アイダホ	405	486	ノースダコタ	17,725	47,712
コロラド	19,425	11,331	ミシガン	1,538	1,659	ワシントン	67,583	7,689
アイダホ	12,950	8,094	ノースダコタ	1,295	931	ワイオミング	(D)	728
ミネソタ	6,435	3,561	ワシントン	445	809	米国全体	250,419	331,721
モンタナ	2,428	1,214	米国全体	4,694	5,666	その他の品種		
ネブラスカ	37,879	25,010	ブラック			カリフォルニア	2,023	1,538
ノースダコタ	189,393	132,737	カリフォルニア	81	(D)	コロラド	(D)	1,133
ワシントン	3,157	3,399	アイダホ	1,659	1,821	アイダホ	1,416	1,174
ワイオミング	12,545	9,308	ミシガン	48,967	38,850	ミシガン	1,497	(D)
米国全体	285,870	196,273	ミネソタ	16,390	16,187	ミネソタ	1,578	2,185
ライトレッドキドニー			ノースダコタ	36,017	38,445	モンタナ	-	202
コロラド	1,619	2,145	ワシントン	1,174	1,578	ワシントン	809	688
アイダホ	567	769	米国全体	108,132	99,310	ワイオミング	1,416	728
ミシガン	2,509	2,469	ブラックアイ			その他の州 1/	3,642	4,492
ミネソタ	6,394	5,787	カリフォルニア	3,480	1,902	米国全体	12,383	12,141
ネブラスカ	4,249	3,561	ネブラスカ	(D)	2,630	乾燥インゲンマメ全品種		
ワシントン	526	364	テキサス	7,284	10,522	米国全体	846,602	831,224
米国全体	16,147	15,378	米国全体	12,262	15,661			

生産量：米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、農業統計局 (NASS) から、2018年8月10日付で公表。

米国の乾燥インゲンマメ州別及び銘柄別作付面積:2017年及び2018年8月10日現在の推定値。

(D) 個別の営農組織のデータの開示を避けるために公表せず。

1/上記の理由で公表しないデータを含む。

2/小粒ヒヨコマメは、64分の20インチより小さいヒヨコマメ (ガルバンゾ)。

3/大粒ヒヨコマメは、64分の20インチより大きなヒヨコマメ (ガルバンゾ)。

カナダ：2018年9月17日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

概観

本報告書は、8月に公表されたカナダ農業食料省の2017/18作物年度の生産見通し報告書（2017/18作物年度は全作物について終了している）及び2018/19作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終わる。トウモロコシ及びダイズについては、作物年度は9月1日から8月31日までである。

乾燥エンドウ

2017/18作物年度のカナダの輸出量は、インドへの輸出量が減少していることから2016/17作物年度に比べて22%減少して310万tとなった。インドへの輸出量の減少は、中国及び米国への輸出量が過去最高記録に達する見込みであることで部分的に埋め合わせられた。国内利用量は前年度に比べて減少した。乾燥エンドウの平均価格は、輸出量が減少したことにより265ドル/tとなり、2017/18作物年度の期末在庫量は前年度に比べて増加した。黄色乾燥エンドウの作物年度平均価格は前年度に比べて低下したが、緑色エンドウ及び飼料用エンドウの価格は2016/17作物年度と同様であった。

2018/19作物年度のカナダの乾燥エンドウ生産量は、STC（カナダ統計局）の推定

によれば、収穫面積の減少により、2017/18作物年度に比べて12%減少して360万tとなる見込みである。サスカチュワン州が乾燥エンドウ生産量の47%、アルバータ州が48%をそれぞれ占めており、マニトバ州が2.5%、ブリティッシュコロンビア州が2%を占め、残りはカナダ東部で生産されている。ただし、期初在庫量が前年度に比べて増加したことから、総供給量の減少は3%に留まるものと予測されている。輸出量は減少して290万tとなる見込みであり、中国、米国及びバングラデシュが引き続きカナダ産乾燥エンドウの輸出市場の上位を占めている。期末在庫量もまた減少するものと見込まれている。世界的な供給量の増加がカナダの期末在庫量の減少によって部分的に相殺されるので、平均価格は2017/18作物年度に比べて低下する見込みである。

米国の2018/19作物年度の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、前年度に比べて22%減少して36万4,230haとなる見込みである。これは主としてモンタナ州及びノースダコタ州で作付面積の減少が見込まれていることによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、米国の乾燥エンドウ生産量は、AAFCの予測によれば、増加して70万tとなる見込みである。米国はカナダとの共通の市場である中国及びトルコへの少量の乾燥エンドウの輸出に成功しており、2018/19作物年度には米国のこの市場での占有率の増加への働きかけがあるものと見込まれる。

レンズマメ

2017/18作物年度のレンズマメ輸出量は2016/17作物年度を37%下回り、150万tに減少した。この総輸出量のうち80万tが赤色レンズマメであり、70万tが緑色レンズマメであった。主要な輸出市場はトルコ、アラブ首長国連邦、EU諸国であり、メキシコ及び米国への輸出量は過去最高記録に達した。国内総利用量は前年度に比べて減少して50万tとなった。期末在庫量は大幅に増加して90万t近くに達した。期末在庫量の増加により、カナダのレンズマメ平均価格は2016/17作物年度に比べて大きく低下した。1等級緑色レンズマメの価格は1等級赤色レンズマメの価格を340ドル/t上回り、記録的な価格差を維持している。

2018/19作物年度のレンズマメ生産量は、15%減少して210万tとなる見込みである。作付面積が2017/18作物年度に比べて14%減少しており、その大部分が赤色レンズマメの作付けが減ったことによるものである。州別に見ると、サスカチュワン州がレンズマメ生産量の88%を占め、アルバータ州が11%、残りをマニトバ州及びブリティッシュコロンビア州が占めている。生産量が減少したにも関わらず、期初在庫量が多かったことから、総供給量は6%増加する見込みである。輸出量は増加して180万tとなる見込みである。期末在庫量は減少して80万tとなる見込みである。期末在庫量は減少するものの、世界的に供給が増加するとの思惑があることから、全等級のレンズマメの平均価格は、2017/18作物年度に比

べて大幅に低下する見込みである。

米国の2018/19作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2017/18作物年度に比べて30%近く減少して80万エーカー（32万3,760ha）となる見込みであるが、これはモンタナ州及びノースダコタ州で作付面積が減少したことによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、2018/19作物年度の米国のレンズマメ生産量は、AAFCの予測によれば、前年度に比べて大きく増加して40万tとなる見込みである。米国産レンズマメの主要な輸出市場は、引き続きカナダ、米国及びEU諸国であり、特にスペインへの輸出が顕著となる見込みである。

乾燥インゲンマメ

2017/18作物年度の乾燥インゲンマメ輸出量は、EU諸国の需要が強く、さらにアフリカ諸国から過去最高記録の需要があることから、2016/17作物年度に比べて増加する見込みである。EU諸国及び米国はカナダ産乾燥インゲンマメの輸出市場として第一位及び第二位を占めており、これより少量がアンゴラ、日本及びメキシコへ輸出されている。北米全体の供給量が増加していることが、2017/18作物年度に、米国及びカナダの乾燥インゲンマメ価格が低下する主な原因となっており、特にピントー・ビーンについて、この傾向が顕著である。

2018/19作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ生産量は減少して31万tとなる見込みであり、これは主にオンタリオ州で作付面

積が減少したことによるものである。州別に見ると、マニトバ州が乾燥インゲンマメ生産量の39%を占めており、オンタリオ州が25%、アルバータ州が26%を占め、残りをケベック州、沿海諸州及びブリティッシュコロンビア州が占めている。期初在庫量が増加したことから、総供給量は増加する見込みである。輸出量は前年度に比べて減少する見込みである。その結果、期末在庫量もまた増加する見込みである。カナダの乾燥インゲンマメ平均価格は、北米全体での供給量が減少する見込みであることから、わずかに上昇するものと見込まれている。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、20%減少して48万5,640haとなる見込みであるが、これは主としてノースダコタ州で作付面積が減少したことによるものである。2018/19作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量（ヒヨコマメを除く）は、AAFCの予測によれば、2017/18作物年度に比べて減少して95万tとなる見込みである。減少率が大きい銘柄は、ピントー・ビーンである。

ヒヨコマメ

2017/18作物年度のカナダのヒヨコマメ輸出量は前年度に比べて増加して11万6,000tとなった。この背景となったのは、トルコ及びEU諸国への輸出量の増加である。供給量が増加し、輸出量が増加した結果、

期末在庫量は前年度と変わりがなかった。平均価格は低下したが、ヒヨコマメ全銘柄について世界的に供給量が逼迫していることから、過去最高に近い価格水準を保っている。

2018/19作物年度のカナダのヒヨコマメ生産量は、大幅に増加して26万4,000tとなる見込みである。州別に見ると、サスカチュワン州がヒヨコマメ生産量全体の83%を占め、アルバータ州が16%、残りをマニトバ州及びブリティッシュコロンビア州が占めている。総供給量は生産量の増加により、輸入量が減少しているにもかかわらず、前年度の二倍近い値となっている。輸出量は2017/18作物年度に比べて増加が見込まれており、期末在庫量は増加して重荷となる水準に達する見込みである。世界的にヒヨコマメの供給量の増加が予測されていることから、平均価格は低下する見込みである。

2018/19作物年度の米国のヒヨコマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、過去最高記録の26万7,102haとなる見込みである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるものとする、2018/19作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、AAFCの予測によれば、前年度に比べて大幅に増加して、過去最高記録の43万tとなる見込みである。米国産ヒヨコマメの主要な輸出先はインド及びEU諸国である。

表4 カナダの豆類作付面積・収穫量・単収その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2016-2017	2017-2018[f]	2018-2019[f]	2016-2017	2017-2018[f]	2018-2019[f]	2016-2017	2017-2018[f]	2018-2019[f]	2016-2017	2017-2018[f]	2018-2019[f]
作付面積 (1,000ha)	1,733	1,656	1,462	2,254	1,783	1,525	129	135	124	62	68	179
収穫面積 (1,000ha)	1,677	1,642	1,428	2,221	1,774	1,509	118	131	123	44	68	177
単収 (t/ha)	2.88	2.5	2.55	1.44	1.44	1.44	2.11	2.45	2.54	1.86	1.49	1.49
生産量 (1,000t)	4,836	4,112	3,635	3,194	2,559	2,167	249	322	312	82	102	264
輸入量 (1,000t) [b]	32	12	15	98	35	35	91	86	80	27	47	8
総供給量 (1,000t)	5,042	4,424	4,300	3,365	2,909	3,078	355	409	427	129	150	273
輸出量 (1,000t) (b)	3,944	3,086	2,900	2,455	1,540	1,800	335	351	340	108	116	135
国内総利用量 (1,000t) [c]	797	688	900	595	492	478	19	23	22	20	33	63
期末在庫量 (1,000t)	300	650	500	315	876	800	1	35	65	1	1	75
在庫量/利用量 (%)	6	17	13	10	43	35	0	9	18	1	1	38
平均価格 (ドル/t) (d)	300	265	220-250	575	475	370-400	885	760	800-830	1,000	950	450-480

[a]作物年度 (8月から7月)

[b]輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c]国内総利用量=食用及び加工用原料用+飼料用廃棄物+種子用+損耗。国内総利用量は総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d]生産者価格 (FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f: 推定。カナダ農業食料省。ただし、2018/19作物年度及び2017/18作物年度以前の年度の作付面積、収穫面積、単収及び生産量は、カナダ統計局の推定。2017/18作物年度以前の年度の輸入量、輸出量、種子用及び期末在庫量は、カナダ統計局の推定。

資料: カナダ統計局 (STC) 及びカナダ農業食料省 (AAFC)

オーストラリア：2018年9月11日公表 ABARES Australian crop report

概観

オーストラリアの生産地域の冬季の生育条件にばらつきがあり、その結果、春季の初めの時点での生産見通しには大きな差異が生じた。

西オーストラリア州では、秋季の後半の適期に降雨があったことと冬季の降水量が適切であったことから土壌湿度の水準が上がり、単収が平年並みを上回る見込みである。南オーストラリア州では、南部の大部分の生産地域で8月の適期に降雨があり、高単収となる見込みであるが、北部の生産地域では6月及び7月に生育条件に恵まれなかったことで単収の見込みが引き下げられた。ヴィクトリア州では、マリー地区で冬季の生育条件が良くなかったことから生産見通しが引き下げられたが、ウィメラ地区及び州西部の地域では冬季の生育条件が良好であったことから生産見通しが大幅に引き上げられている。

ニューサウスウェールズ州及びクイーン

ズランド州の大部分の生産地域では、生育条件が良くなかったことから作付けを予定していた農地での作付け実施率が低下し、単収が平年並みを大きく下回る見込みである。

冬作総生産量は、春季の今後の生育条件に大きく左右される。現在は土壌湿度の水準が低いことから、春季の初めに適期の降雨が得られるかどうか、オーストラリア東部の諸州（南オーストラリア州を含む）の多くの生産地域で現在生育中の作物の作柄の決め手となる。西オーストラリア州では、春季の生育条件が良好であれば生産量が当初の予測を大きく上回る可能性がある。

オーストラリア気象庁が2018年8月30日に公表した最新の今後3カ月の気象予測（2018年9月から11月まで）によれば、オーストラリアの大部分の生産地域では中程度以上の降雨がある可能性は低いとのことである。西オーストラリア州及びクイーンズランド州の一部では、9月の気温が平年並みを上回る見込みである。10月の気温は、オーストラリアの大部分の生産地域で平年並みを上回る見込みである。

表5 オーストラリアの豆類作付面積及び生産量

作物名	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2016-17	2017-18s	2018-19f	2016-17	2017-18s	2018-19f
ヒヨコマメ	1,069	1,116	327	2,004	1,148	351
ファバビーン (ソラマメ)	233	220	171	484	330	225
フィールドピー	230	222	170	415	289	208
レンズマメ	276	353	297	680	485	369
ルーピン	515	518	498	1,031	631	689

f: ABARES による予測。

s: ABARES による推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12ヵ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるのかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表6 州別生産量

	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)
ヒヨコマメ												
2018-19f	40	32	35	30	220	245	24	32	8	12	0	0
2017-18s	450	407	55	60	575	638	30	35	6	8	0	0
2016-17	480	792	16	28	550	1,150	19	27	4	7	0	0
2017/18作物年度までの5年間の平均	351	444	32	39	352	531	20	22	4	6	0	0
フィールドピー												
2018-19f	31	33	50	55	0	0	69	76	20	44	0	0
2017-18s	52	52	60	70	0	0	90	125	20	42	0	0
2016-17	50	85	49	100	0	0	100	175	31	55	0	0
2017/18作物年度までの5年間の平均	50	66	53	65	0	0	105	139	26	39	0	0
レンズマメ												
2018-19f	2	3	125	100	0	0	159	254	11	13	0	0
2017-18s	22	29	150	200	0	0	175	250	6	6	0	0
2016-17	5	10	110	200	0	0	160	470	0	0	0	0
2017/18作物年度までの5年間の平均	6	9	106	126	0	0	128	232	2	2	0	0
ルーピン												
2018-19f	40	46	30	35	0	0	48	58	380	550	0	0
2017-18s	75	75	35	40	0	0	58	75	350	441	0	0
2016-17	51	66	33	60	0	0	70	100	361	805	0	0
2017/18作物年度までの5年間の平均	67	75	35	37	0	0	63	76	315	509	0	0

f: ABARES による予測。

s: ABARES による推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。

典拠: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表7 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

作物名	2011-12 (1,000t)	2012-13 (1,000t)	2013-14 (1,000t)	2014-15 (1,000t)	2015-16 (1,000t)	2016-17 (1,000t)
ルーピン	982	459	626	549	652	1,031
フィールドピー	342	320	342	290	205	415
ヒヨコマメ	673	813	629	555	875	2,004
見かけ上の国内利用量 a						
ルーピン	416	290	286	306	398	637
フィールドピー	130	145	175	124	72	148
ヒヨコマメ	93	1	0	1	1	1
輸出量						
ルーピン	565	169	340	243	254	395
フィールドピー	215	177	169	168	134	268
ヒヨコマメ	581	853	629	663	1,145	2,293

a: 生産量に輸入量を加えた値から、輸入量を引き、さらに在庫量にあきらかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。

注: 生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。豆類の市場年度は11月から10月までである。市場年度に基づく輸出量のデータが、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量の数値と一致しない場合がある。500t未満の場合には、ゼロと表示する。ABSの農業データ収集方針の変更により、2014/15年度までは推定生産額5,000ドル以上の規模の生産主体(EVAO)による生産量となっていたが、2015/16年度以降は推定生産額40,000ドル以上の規模のEVAOによる生産量となっている。

典拠: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表8 豆類価格の推移 (豪ドル/t)

作物名	2016 第4四半期	2017 第1四半期	2017 第2四半期	2017 第3四半期	2017 第4四半期	2018 第1四半期	2018 第2四半期
国内価格: ルーピン (クイナナ調べ)	272	298	267	296	286	234	322
国内価格: ヒヨコマメ (メルボルン調べ)	776	993	1,034	869	763	827	645
国内価格: フィールドピー (メルボルン調べ)	355	555	362	318	298	343	378
輸出価格: ヒヨコマメ b	968	904	1,024	1,012	957	942	737
輸出価格: フィールドピー b	506	590	458	416	389	444	426

a: 単位重量当たりの輸出価格は、米ドルで表記された日別価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて豪ドルに換算したものである。

b: 単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たり平均価格(F.O.B.本船渡し)である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点の間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注: 第1四半期は1月から3月まで。第2四半期は4月から6月まで。第3四半期は7月から9月まで。第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

典拠: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、CMEグループ、Farm Weekly、国際穀物会議(International Grains Council)、The Land、The Weekly Times、米国農務省